

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価 (◎、○、●)
	国語		<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを整理して文章を書くことが難しい児童がいる。 複数の資料を読み取って比較することや、読み取ったことを基に自分の考えを表現することを苦手とする児童が多い。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料から情報を正しく読み取ることを苦手とする児童がいる。 教科書に出てくる言葉を理解できていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取れることを箇条書きにし、根拠を明らかにしながら説明させるようにする。 教科書、資料集の必要な部分については、音読を学習活動に位置付けたり、テスト前にクイズを作ったりして、言葉の意味を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全単元で、資料を読み取り、気付いたことをノートにまとめる活動を1回は位置付ける。 ○ワークテストの語句説明や用語の穴埋めで、80%の児童が資料を読めている。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面の理解が十分でないため、立式できなかつたり、自分の立てた式に自信をもてなかつたりする児童が目立つ。 基礎的な計算（加法、減法、乗法九九）の速さ、正確さの個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を、数直線や関係図に表す経験を重ねる。特に数直線では描き順や矢印の使い方を丁寧に指導し、自信をもって数直線から立式できるようにする。 基礎計算（主に繰り下がり減法や九九）を繰り返し練習する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●テストで正しく立式できる児童が70%以上。 ○ワークシートやワークテスト等で、正確に解けているかを確認する。（正しく解ける児童が80%以上）
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察において、結果から分かることを考察することや、その内容を表現することを苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察の目的に沿った考察や結論の書き方や文章の形の指導を位置付け、時間を確保しながら自力で考察や結論を書かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○70%の児童が、考察や結論について自分の考えを文章で表現することができる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的であるが、演奏を極めようという意欲に欠ける児童が多い。 鑑賞の学習で、感じたことをどのように書いたらよいか悩む児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> どのように演奏したらよいか問いかけ、考えて演奏できるようにする。 言葉を感じワードを提示しておき、参考にして書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各題材でワークシートを活用し、児童の思いや考えを見取る。 ◎80%以上の児童が自分の言葉で感じた事を書く。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いがあっても、どのようにすれば良いか分からない児童が少なくない。 これまで学習した技能が十分定着していない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 試行錯誤する活動の時間を十分に確保し、自分の好きな表現や作りたいものを模索できるようにする。 技能面に関しては、基礎的な事項を繰り返し丁寧に指導する。一斉指導のほか、個別指導も適宜行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎試した結果をアイディアメモにまとめ、活用させる。（1題材につき1回以上） ○一斉指導での理解度を挙手や机間指導で確認。必要に応じ個別指導を入れる。（1題材につき2回以上）
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 家での手伝いの有無による、技能や知識の個人差が大きい。 学校で学んだことを家庭で実践する意欲と機会に差があり、家庭任せになりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能を理解しやすい映像や実演を効果的に活用し、必要に応じて個別指導を行う。 家庭において学んだことを実践できるように、家庭での学びを交流する活動を指導計画に位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●製作や調理では十分な作業時間や個別指導の機会を確保し、全員が実習できるようにする。 ○調理に関する単元では、年間で2回以上、家庭で実践してカードにまとめ、交流する機会をもつ。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自己の課題を把握し、解決の仕方を見付けて、意図的に取り組むことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを活用し、自分に合った目標を設定しながら運動ができるようにする。また、グループやチームで見合ったり、教え合い高め合ったりする機会を意図的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の課題を設定し、その課題の解決に向けた練習を選ぶことができる児童80%以上。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見に自信をもてない児童がいる。特に多数派の考えではない場合が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 発問を工夫し、考える時間を設けたり、友達の見解を参考にできるようにペアやグループ交流を取り入れたりする。 葛藤や、分かっているけれどできないことなど、様々な場面や思いを肯定する雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業で発言できる児童90%以上。 ○友達と自分の考えを比べ、考えを広げたり深めたりできていることを、ワークシートに記述した内容から見取る。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 英語で話すことに自信がなく、1人で話す場面では声が小さくなる児童がいる。 アルファベットの大文字や小文字が十分身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやトリオの中で話す場面を多くつくり、1人で話す機会を増やす。 ライティングの時間を確保し、四線紙に正しくアルファベットを書く練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グリーティングや基本の文型については80%以上の児童がよく聞かえるように話すことができる。 ●アルファベットの大文字、小文字を正しく書ける児童80%以上
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 自らの課題や取り組むことの意義がはっきりしないまま活動に取り組んでいる児童がいる。 調べたことをまとめたり、表現したりする力の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題をもつ時間から、活動をはじめる時間までに、個々の課題をチェックし必要な指導を行う時間を確保する。 調べ方や、まとめ方について取り立て指導する時間、苦手な児童に個別指導する時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全単元で実施。 ◎「ライスウォッチング」の単元で、まとめ方例を作成し、まとめ方についての指導を位置付ける。